

早稲田大学学生部長 池谷知明殿
学生生活課課長 久保山尚英殿

2021年6月17日
文化団体連合会常任委員会

要求書

現在学生部は、サークル活動の再開に向けた今後のめどや保障を示すことなく、一ヶ月にわたり対面でのサークル活動を禁止する措置を継続しています。これによって、多くのサークルが運営や計画の見直しを余儀なくされ、今後の活動の見通しも立てられない状況に追い込まれています。このことに鑑み、以下のことを要求し、回答を求めます。

【1】

現状のオンラインでの活動だけでは、文化系・スポーツ系を問わず技術的な訓練や指導、練習や研究活動を行なうには限界があり、多くのサークルが非常に苦心しています。特にこの時期は、新たに入会した仲間とともに共同作業や共同研究の基盤をつくりあげる大切な活動の期間であり、これが大きく制限され続けている現状は今後のサークル運営や存続にかかわるきわめて重大な問題です。

学生部は「緊急事態宣言」のもとでもキャンパスでの授業が継続している現状にふまえ、学生会館をはじめとした部室やサークル活動施設を早急に開放するよう求めます。

【2】

そもそも今回の措置は、多くのサークルが綿密な年間計画のもと演劇公演、音楽演奏会、研究発表会や大会参加などにむけた準備と練習をつみかさねていたさなかに、一片の通告をもって行なわれました。各サークルは「公認サークル継続手続き」や「イベント申請」においてすでにこうした活動計画を明らかにしているにもかかわらず、事前に通達すらされないまま予定していた企画の「中止または延期」に突如おいこまれたのです。そればかりかサークル企画を「中止または延期」することによって発生する赤字の補填・補償も、今後のサークル活動再開のめどや代替措置の保障も示されないために多くのサークルが運営上の困難に直面しています。このようなサークルのおかれている苦境を顧みることのない今般の一方的な措置に、文連はあらためて強く抗議します。そして、今後再びサークル活動を突然中止することのないよう強く求めます。

そのうえで、社会的には必要な感染対策を講じて演奏会や演劇公演、スポーツ競技等が実施されている現状にふまえて、早稲田大学においても対面でのサークル活動や企画を実現するために以下のことを求めます。

- ・ 教室やキャンパスのラウンジにおいてはアクリル板の設置等が進んでいます。学生会館地下の部室や練習室にも同様にアクリル板やサーキュレータ等を導入するよう求めます。
- ・ 部室、会議室（E519 など）の故障して開放できない窓をただちに修繕し、ラウンジの換気機能も強化するよう求めます。
- ・ サークル活動スペースの不足を解消しサークル員の密集を回避するために、換気機能が高いキャンパスの空き教室を開放するよう求めます。

加えて、5・6月に予定していたサークル諸企画を「中止または延期」することにもなつて発生したキャンセル料について、サークルごとに認められた補助金の「年間予算額」とは別枠で全額補償するよう求めます。また、「イベント」にかかわるかどうかが年度初めの申請をしているか否かにかかわらず、通常の活動で使用した学外の有料施設の費用への特別援助を行なうよう求めます。

【3】

東京五輪のためのキャンパス内へのパブリック・ビューイング設置や海外選手団の練習会場提供にもなつて、授業やサークル活動が制限される大学が出ています。早稲田大学においても海外選手団の受け入れが公表されていますが、このことを理由にしてサークル活動を制限・禁止することのないよう強く求めます。

【4】

感染拡大が続くもつで、早稲田大学においてもアルバイト収入や親の収入の減額に直面している学生は増え続けており、サークル活動経費の捻出はもとより学費や生活費を工面することがこれまで以上に厳しくなっています。経済的な理由でサークル活動への参加を断念したり、休学・退学に追い込まれたりすることがないように、困窮するすべての学生に対する支援を強化し、学費の減額・免除や給付型奨学金のさらなる拡充を求めます。

【5】

以上の要求について学生部と文連との話し合いの場をもつことを求めます。

以上について6月23日までに文書での回答を求めます。

以上